

★今週の聖句

「国が内輪で争えば、その国は成り立たない」

マルコ3:24

★ねらい

イエス様は神さまから遣わされみことばを語った。宣教するイエス様は容易には理解されなかった。悪霊の力をもってみことばを語っているとされたが、そのことにご自分を冒瀆されたことを怒るのではなく、神さまを冒瀆することは赦されないとされたこと、栄光を神さまに帰そうとするイエス様の姿を伝えたい。

★説教作成のポイント

内輪もめをしなないという譬えを通して、イエス様が今の人々の間以外の所から遣わされたことが語られている。

まず強い人を縛り上げるの強い人とは単純に人を指すだけではなく、わたしたちの内にある頑固な部分と読むことができる。

★豆知識

ベルゼブル（ベルゼブブ）は悪霊の王とされる。旧約聖書『列王紀』に登場する、ペリシテ人（フィリスティア人）の町であるエクロンに神バアル・ゼブブ（バアル・ゼブル）と同一とされる。この名はヘブライ語で「ハエの王」を意味する。

★説教

きれいな円、丸を書くためにはどうしたら画けるでしょうか。きれいな円を描くための道具にコンパスというものがあります。真ん中に針を刺して固定して画いていくとききれいな円が描けます。もちろん、これが途中でずれてしまうときれいな円になりません。中心が一つであれば丸が書けます。では、皆さんは楕円って知っていますか？ちょっと細長かったり、太かったりする円の事です。この楕円の書き方は中心と言いますか焦点を二つまたは三つ作ると楕円になるのです。そうです、中心が一つではなくて二つ以上ある時にはその円はどんなにがんばっても楕円になってしまいます。

もし、わたしたちの人生にきれいな円を描きたいと思ったら、中心を一つにしなくてはなりません。そして、キリスト者にとって中心はただ一つしかありません。それがイエス様であり、神さまのみことばです。今日のみことばでイエス様は家を略奪するときには「まず強い人を縛りあげてからその家に押し入るべき」と言われます。もちろん、本当に家に押し入ろうというわけではありません。わたしたちの心、人間という家の中に入るためにはまず、罪という強いもの、まっすぐに生きようとするのを拒む心を縛り上げなければならぬことを伝えます。わたしたちの心の中にある悪いもの、もう一つの中心になろうとするものはイエス様が縛って取り除いてくださると約束してくるのです。

そして、人々はイエス様のことを悪魔の頭だと言っていました。まだイエス様のことを理解できなかったのでしょうか。分からないことがあると事実と違うことを言いふらしたりすることがありますが、それはいけないことです。本当は何かちゃんと自分で確かめないといけないですね。イエス様は神さまが遣わしてくれた方。人を滅ぼす言葉ではなく、助けて育て、生かす言葉を語ってくださる方です。

★分級への展開

○さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

60番 改訂版7番

○やってみよう

☆心の中を何でいっぱいにする？

<用意するもの>

どちらかの風船（ここでは赤）を神さまに従う心に、また、もう1つの風船(青)をわたし達を神さまから引き離そうとするサタンに見立てる。たとえば、

- ・疲れて電車で座っているときに、おじいさんが乗ってきた！
- ・意地悪されている友だちを見た。声をかけようかな……どうしよう……。
- ・落とした荷物が散らばってしまった人を見かけた。急いでいるんだけど……。

こんなとき私たちの心の中に膨らんでいるのはどちらの色の風船だろう？どちらの色の風船を膨らませたい？1つの心の中で2つの風船を膨らませたりしぼめたりしながら心の動きをみんな考えてみる。

「今、ここにイエス様がいたら、どうさなさるだろうか」をひとつのヒントとして示す事もできる。

結びに「かみさまが喜ぶ事ができる子どもにしてください」、と心を合わせて祈る。

★今週の聖句

「神の国を何にたとえようか。それは、からし種のようなものである」
マルコ4:30

★ねらい

神の国の譬えである。成長していくには過程があり、出来上がるものが自分のためになるものではなく、他者のためのものとなること（穂は人の栄養になり、大きな木は鳥の休み場となる）を伝えたい。

★説教作成のポイント

イエス様は人々の聞く力に応じて譬えを話されたこと、またひそかにすべてを説明されたことを見落としてはならない。

穂は多くの実をつければだんだんと垂れてくる。それはキリスト者が他の人に仕える、頭を垂れて生きる姿と同じ。からし種はこの世界で最も小さな種と言われている種。

★豆知識

洋からし（マスタード）の木（カラシナ、正確には草）は北米、中東、地中海に生育し、エジプト時代から香辛料や薬草、あるいは防腐剤としても使われた。うちブラック・マスタードの種は極めて小粒。キリスト教文化圏では「からし種」は、信仰心や真理をあらわす宗教的な言葉としても使われる。

★説教

口で筆を持ち、絵を描き、詩を書かれる星野富弘さんは学校の先生をしている時に怪我をして、体が動かない大きなハンディを与えられ、今まで歩んできたスピードと違うスピードで歩むことになりました。しかし、そこで今まで持っていなかった特別な時間を与えられました。描く絵からはゆっくりと眺めた者でなければ気づかない細かさがにじみ出てきます。一日二、三時間しか筆を持つことができませんから一枚を書き上げるのに何日もかかることがあるのでしょう。そんな星野富弘さんの春という題の詩があります。「花がきれいですねえ、誰かがそういつうしろを過ぎていった。気がつくといのの前に花が咲いていた。私は何を見ていたのだろうか。この華やかな春の前で、いったい何を考えていたのだろうか」。この詩は人間のスピードと神さまのスピードの違いを教えてくれるように思います。人間が見ているから、同じスピードで歩んでいるから、世話をしているから花が育つのではないのです。知らぬ間に、誰も見ていなくても育っていきます。当たり前のようにありながらそれは気づく人には大きな恵みです。育ててくださる方がおられるのです。

イエス様はたとえ話を二つされました。田んぼで稲が育っていく。誰も見ていないのに神さまが育ててくださる。穂が豊かに実ると、垂れて、それを神さまが刈り取ってくださる。からし種という世界で一番小さな種が大きな木へと育っていく。稲穂、お米は食べられて、人間の栄養になります。大きな木に育ったからし種は鳥たちが羽を休める場所になります。育って、大きくなるのは自分勝手に好きなように生きるためではありません。神さまはそのことを仕える者になると教えてくださいます。私たちも神さまによって成長させられて、多くの人の役に立つ生き方、仕える者として生きていきたいと思います。

★分級への展開

○さんびしよう *讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□90番 □126番

○やってみよう

☆小さな種を蒔こう！

とても小さな種が、やがて成長して花を咲かせるのには神さまの業があることを実感できるような体験をする。小さな種に秘められている、力強い生命力は、神さまによって成長するのだということを知る。数ヵ月後に食べられるトマトなどの野菜も楽しい。

<用意するもの>

種(できるだけ小さなもの)

小さな植木鉢土、培養土 など。

□毎日誰かが水やりなどの世話ができるようにし、折に触れ、成長をみんなで見守る。

★今週の聖句

「なぜ怖がるのかまだ信じないのか」

マルコ4:40

★ねらい

荒れる湖の舟の中で平安のうちに眠るイエス様と恐れおののく弟子たちの姿が対比される場面である。直面している事態は同じであるが、心の持ちよう一つでその事態はその人にとって良いものにも悪いものにもなる。イエス様を信じる時、どんな嵐も平安のうちに歩めることを伝えたい。

★説教作成のポイント

夕方に漕ぎ出したとあるが、本来、夕方から夜にかけて船を出すことはない。困難な中でも船出が暗示させる。

風が波を激しくする。風は霊を現し、しばしば荒れる海は悪霊の仕業、死霊の仕業とされてきた。イエス様は自然の全てを支配される方。

★豆知識

船のともは船の船尾を指す。船の中で最も揺れない場所は中央（重心がある場所）である。イエス様は最も安全な場所で寝ていたわけではない。船首にいた弟子と船尾にいる弟子は同じくらい揺れる場所にいた。むしろ安全な中央にいた弟子もいたが恐れたということは恐れが伝染したとも言える。

★説教

疑心暗鬼という言葉を知っているかもしれませんが、疑いの心があると、なんでもないことでも怖いと思ったり、疑わしく感じることのたとえです。もともと、こういう話があります。中国である人が木を切るまさかりを無くしてしまいました。隣の息子が怪しいと思うようになり、すると息子の言葉や行いが全部疑わしく思えるようになりました。ところが、しばらくして近くの谷底で自分のまさかりを忘れてきたことに気づき、発見しました。それ以降、隣の息子の言動を見たり聞いたりしても怪しく感じることはなくなったということです。疑いの心をもっていると、いもしない暗闇の亡霊が目に見えたりするということになったのです。

今日はイエス様と弟子たちは群衆と分かれて、船に乗って反対側に行くことにしました。弟子たちの多くは元漁師でしたから、この天候なら大丈夫、湿度も風もすべてよし。順風満帆に行くはずでした。ところが、天候が悪くなり、波が舟にかぶって水浸しになり始めました。元漁師の彼らでさえ命の危機を感じます。波にもまれてひっくり返りそうになっているのです。そのような状況にあってもイエス様は舟の後ろの方で枕をして眠っておられました。慌てる弟子たちと安眠するイエス様。同じ状況なのに、違う様子です。

「イエス様、助けてください」と頼む弟子たちにイエス様は言われます。「なぜ怖がるのか、まだ信じないのか」と。イエス様が風と波を叱ると湖はすっかり穏やかになりました。イエス様は自然をも支配される方です。そして、私たちの人生の中に困難があってもイエス様を信じ頼るなら、もう鬼を見ることはありません。疑う必要はありません。疑いではなく、信じる心を持つ、イエス様に委ねればこの世界を平安のうちに歩めます。

★分級への展開

○さんびしよう *讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□ 88番 □ 40番

○やってみよう

☆お祈りカードを作ろう

弟子たちに本当の信仰がない事をイエスさまはご存知でした。きっと弟子たちもドキッとしたことでしょう。礼拝の時や教会の中だけでなく、お祈りは、いつでもどこでも出来るのです。神さまに親しく話しかけるようなお祈りカードを作ってみましょう。

<用意するもの>

紙(好みの色、大きさで。小さな子どもが書く場合は、大きめの方が良い。)

□「神さま、うれしいことがありました。」「神さま、今悲しいきもちです。」「神さまありがとうございます。」「神さま、こわい事があります。」など、はじめの一言をいくつか用意し、その中から今の気持ちにピッタリなものを選ぶ。

□何を祈ってよいのかわからない時は、イエスさまが教えてくださった主の祈りがあります。結びにみんなで主の祈りを唱えても良いでしょう。

★今週の聖句

「タリタ、クム」

マルコ5:41

★ねらい

二人の女性の話である。一人はイエス様を直接信じ、行動を起こしている。一人は寝たきりであり、直接動くことはできなかったが、その親がイエス様を信じた。信仰とは個人のものではなく、共同体の祈りの中にもあることを伝えたい。

★説教作成のポイント

病気の癒しの物語よりもその後、二人はどうしたか、イエス様はどうされたかがポイントでもある。安心して行きなさい、立ち上がって歩き出したというように日々の生活に戻す、人々の交わりの中に加えられていくことがイエス様のみわざ。恐れることはないは船の中で風と波に翻弄される弟子たちに語った言葉と同じ。陸地でも恐れを覚える現実はある。そこでどう生きるか、何を信じるかが大切。

★豆知識

「タリタ クム」。アラム語、ヘブライ語、古セム語の説が有力。「タリタ」＝「少女よ」「クム（クミ）」＝「起きよ」。

★説教

今日の聖書には二人の人がイエス様によって癒していただいた出来事が書かれています。まずはじめにイエス様にところにヤイロという人が来ます。彼の十二歳の娘が病気で死にそうです。親が必死にお願いをします。助けてあげてくださいと。イエス様はそれを聞いて、助けてあげるためにヤイロと一緒にヤイロの家に向かうことにしました。その途中の出来事ですが、長い間出血を患っていた女性も藁にもすがる思いでイエス様に近づきます。これまでどんな治療もうまくいかず、病が治るどころか、裏切られ、だまされ、財産を使い果たしていきました。そして、何よりも辛いのは病のために人々の交わりから排除されて、彼女は治る見込みがない孤独と絶望の中で苦しんでいました。彼女はイエス様の服に触れさえすれば治ると信じてそれを実行しました。彼女はそこまでイエス様を信じた、イエス様の力を信じたのです。彼女の信仰の深さがそこにあります。不思議なのはイエス様はそのように治った女性がいたのに気づいた後、彼女を捜したのです。本当はヤイロの娘の所に急ぐべきなのに。イエス様は女性を叱ろうと思ったのでしょうか、恥ずかしい思いをさせようと思ったのでしょうか。そうではありません。見つけた女性にイエス様は言われます。「あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい」と。人々の前に女性を立たせたイエス様ですが、それはこの人を受け入れなさいと周りの人に言ったのかもしれませんが。信仰深い彼女を褒め、人々と共に生きるように勧めてくださったのです。

その間にヤイロの娘の病状は悪くなりました。その知らせを受けてもイエス様はヤイロの家に行きました。そして娘に声をかけます。「タリタクム。少女よ、起きなさい」と。治りなさいと言うのではなく、起きなさい、立ち上がりなさいです。少女も日常生活の中で人々と一緒に生きていく道をイエス様が示され、そこで生きることになりました。

この二人の女性の物語は本人の信仰と家族の信仰、執り成しの祈りを両方イエス様が聞いてくれたこと、そして私たちを立ち上がらせてくださるイエス様を教えてください。

★分級への展開

○さんびしよう *讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□61番 □130番

○やってみよう

☆起きなさいとの声を聞こう

□横になった子どもに「○○(子どもの名前)、クム」と呼びかけ、手を引いて起こす。

□イエスさまの「～しなさい」という言葉をいくつか思い出してみる。

・「わたしにつながっていなさい」ヨハネ15:4

・「互いに愛し合いなさい」ヨハネ15:17

・聖餐式のときの「取って食べなさい」「取って飲みなさい」も牧師の言葉ではなくイエス様の言葉であることを改めて考える。

□少し大きい子どもには・・・。

イエスさまから呼びかけられる「起きなさい」と何か。

その人によって違う意味を持つのかもしれない。

(心を開く。暗い気持ちから抜け出す。平安な心で過ごす。)

教会に来ている大人の人にも聞いてみよう。